

14時30分解禁

平成24年11月 全国百貨店売上高概況

平成24年12月18日

I. 概況

1. 売上高総額	5,542億円余
2. 前年同月比	2.2% (店舗数調整後/7か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	86社 249店 (平成24年10月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,324,398㎡ (前年同月比: -1.4%)
5. 総従業員数	83,208人 (前年同月比: -5.6%)
6. 3か月移動平均値	4-6月 -0.3%、5-7月 -1.9%、6-8月 -2.0%、 7-9月 -1.7%、8-10月 -1.3%、9-11月 -0.1%

【参考】平成23年11月の売上高増減率は-1.9% (店舗数調整後)

【11月売上の特徴】

7か月ぶりに前年同月比プラスとなった。また、その増加率は2.2%を記録し、震災の反動要因があった今年3月(+14.1%)を除くと、伸び率としては本年最高水準を記録した。

11月は全国的に平年を大きく下回る気温低下から、展開最盛期のコートを中心とした重衣料やマフラー・手袋などの防寒用品を含む主力の衣料品(+3.4%)が活発に動いたほか、特選・ブーツ・ハンドバッグに動きが見られた身のまわり品(+5.2%)も大幅な伸びを示した。土曜1日減などのマイナス要素もあったが、入店客数は前年並みに留まり、化粧品(+3.7%)や高額商材(美・宝・貴:+1.0%)なども引き続き好調を持続した。

当月の特徴的な動向としては、①改装店舗がほぼ出揃った東京(+3.1%)や大阪(+6.4%)を中心に大都市(10都市:+3.3%)が商況全体を牽引したこと、②10都市以外の地区(+0.0%)も本年3月以来8か月ぶりに前年を確保したこと、③商品別では外商商材の計上の影響を受けた家庭用品を除く各品目が前年をクリアするなど全般に好調だったことなどがあげられる。また、お節やクリスマスケーキなどの季節商材が好調だったほか、歳暮の前半戦も堅調に推移した。訪日外国人は大震災以降回復が遅れていた韓国が戻り始めたほか、東南アジア(特にタイ)からの来店が大きく伸びたことなどから、売上・客数共に2か月ぶりのプラス(売上高:+9.1%、購買客数:+3.7%)となったこと、などが報告されている。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「11月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
 - ◇ 北日本と東日本日本海側では低気圧の影響で降水量はかなり多く、東日本太平洋側と西日本では天気は数日の周期で変わった。また、気温は北日本では平年並み、東日本以西では平年を下回る日が多かった。
- (2) 営業日数増減 29.9日(前年同月比±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 9日(〃 -1日/土曜が1日減・祝日と重複)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数130店舗)
 - ①増加した:41店、②変化なし:36店、③減少した:53店
- (5) 11月歳時記(文化の日、勤労感謝の日、七五三、歳暮)の売上(同上/有効回答数106店舗)
 - ①増加した:23店、②変化なし:52店、③減少した:31店
- (6) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値/有効回答数170店舗)
 - ①増加する:19店、②変化なし:85店、③減少する:18店、④不明:48店

全国百貨店 売上高速報 2012年11月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	554,244,161	100.0	2.2 (1.4)
10都市	364,840,370	65.8	3.3 (2.9)
札幌	13,006,284	2.3	0.6
仙台	7,565,197	1.4	-4.3
東京	140,799,835	25.4	3.1 (2.5)
横浜	32,742,456	5.9	2.3
名古屋	31,242,541	5.6	3.1
京都	21,312,107	3.8	1.6
大阪	74,669,964	13.5	6.4
神戸	14,557,619	2.6	5.6 (0.6)
広島	12,114,664	2.2	-2.0
福岡	16,829,703	3.0	3.9
10都市以外の地区	189,403,791	34.2	0.0 (-1.2)
北海道	2,923,566	0.5	-1.5
東北	9,641,142	1.7	-0.4
関東	91,229,135	16.5	0.2 (-2.4)
中部	13,882,509	2.5	-4.8
近畿	18,521,416	3.3	0.0
中国	13,406,367	2.4	2.5
四国	9,923,410	1.8	0.5
九州	29,876,246	5.4	0.9

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	554,244,161	100.0	2.2 (1.4)
紳士服・洋品	44,525,899	8.0	5.8 (5.3)
婦人服・洋品	125,534,661	22.6	3.0 (2.4)
子供服・洋品	11,929,225	2.2	1.8 (0.0)
その他衣料品	13,979,643	2.5	1.3 (0.6)
衣 料 品	195,969,428	35.4	3.4 (2.7)
身のまわり品	61,367,998	11.1	5.2 (3.7)
化粧品	30,257,397	5.5	3.7 (3.2)
美術・宝飾・貴金属	23,553,685	4.2	1.0 (0.2)
その他雑貨	20,686,168	3.7	-2.8 (-3.0)
雑 貨	74,497,250	13.4	1.0 (0.5)
家 具	6,515,701	1.2	-1.7 (-2.3)
家 電	1,556,379	0.3	-46.9 (-46.9)
その他家庭用品	18,074,156	3.3	0.5 (-0.2)
家 庭 用 品	26,146,236	4.7	-5.1 (-5.6)
生 鮮 食 品	35,427,148	6.4	0.0 (-0.7)
菓 子	39,183,459	7.1	4.3 (3.6)
惣 菜	33,554,867	6.1	1.9 (1.4)
その他食料品	57,188,632	10.3	0.4 (-0.2)
食 料 品	165,354,106	29.8	1.5 (0.9)
食 堂 喫 茶	14,591,946	2.6	4.3 (3.9)
サ ー ビ ス	5,899,832	1.1	1.7 (0.9)
そ の 他	10,417,365	1.9	-3.4 (-4.2)
商 品 券	21,758,612	3.9	-3.9 (-4.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 3.3% (店舗数調整後／2か月ぶりプラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | +0.0% (" ／8か月ぶりプラス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	3.3	2.1	2か月ぶりプラス
札幌	0.6	0.0	2か月連続プラス
仙台	-4.3	-0.1	7か月連続マイナス
東京	3.1	0.8	2か月ぶりプラス
横浜	2.3	0.1	7か月ぶりプラス
名古屋	3.1	0.2	2か月ぶりプラス
京都	1.6	0.1	2か月ぶりプラス
大阪	6.4	0.8	8か月ぶりプラス
神戸	5.6	0.1	4か月連続プラス
広島	-2.0	0.0	8か月連続マイナス
福岡	3.9	0.1	2か月ぶりプラス
10都市以外の地区	+0.0	0.0	8か月ぶりプラス
北海道	-1.5	0.0	8か月連続マイナス*
東北	-0.4	0.0	2か月連続マイナス*
関東	0.2	0.0	8か月ぶりプラス
中部	-4.8	-0.1	8か月連続マイナス
近畿	+0.0	0.0	8か月ぶりプラス
中国	2.5	0.1	2か月ぶりプラス*
四国	0.5	0.0	2か月ぶりプラス
九州	0.9	0.0	5か月ぶりプラス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、衣料品が3か月ぶり、身のまわり品と雑貨が2か月ぶり、食料品が8か月ぶりのプラス。家庭用品が7か月連続のマイナスとなった。また、化粧品が4か月連続、美術・宝飾・貴金属が3か月連続のプラス、紳士服・洋品、婦人服・洋品、惣菜が3か月ぶり、子供服・洋品、その他衣料品、その他家庭用品が8か月ぶり、菓子、その他食料品が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	2.2	—	7か月ぶりプラス
紳士服・洋品	5.8	0.4	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	3.0	0.7	3か月ぶりプラス
子供服・洋品	1.8	0.0	8か月ぶりプラス
その他衣料品	1.3	0.0	8か月ぶりプラス
衣料品	3.4	1.2	3か月ぶりプラス
身のまわり品	5.2	0.6	2か月ぶりプラス
化粧品	3.7	0.2	4か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	1.0	0.0	3か月連続プラス*
その他雑貨	-2.8	-0.1	8か月連続マイナス*
雑貨	1.0	0.1	2か月ぶりプラス
家具	-1.7	0.0	2か月連続マイナス
家電	-46.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	0.5	0.0	8か月ぶりプラス
家庭用品	-5.1	-0.3	7か月連続マイナス
生鮮食品	-0.0	0.0	8か月連続マイナス*
菓子	4.3	0.3	2か月ぶりプラス*
惣菜	1.9	0.1	3か月ぶりプラス*
その他食料品	0.4	0.0	2か月ぶりプラス*
食料品	1.5	0.5	8か月ぶりプラス
食堂喫茶	4.3	0.1	2か月ぶりプラス
サービス	1.7	0.0	6か月連続プラス
その他	-3.4	-0.1	7か月連続マイナス
商品券	-3.9	-0.2	21か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成24年11月 東京地区百貨店売上高概況

平成24年12月18日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,407億円余
2. 前年同月比	3.1% (店舗数調整後/2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭 の増減	店頭3.0%(88.5%) : 非店頭4.4%(11.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 26店 (平成24年10月対比±0店)
5. 総店舗面積	920,585㎡ (前年同月比: 0.5%)
6. 総従業員数	19,071人 (前年同月比: -0.3%)
7. 3か月移動平均値	4-6月 2.8%、5-7月 0.2%、6-8月 -0.4%、 7-9月 -0.2%、8-10月 -0.3%、9-11月 0.9%

[参考] 平成23年11月の売上高増減率は-3.0% (店舗数調整後)

【11月売上の特徴】

- (1) 東京地区も気温低下の影響で冬物衣料(+5.4%)が活発に動いた。具体的にはコート、ジャケット、ブルゾン、スーツなどのほか、セーター、ストール、マフラー、手袋等の洋品類も大きく伸びた。
- (2) 身のまわり品は、今年3月の震災反動増(+39.6%)を除けば63か月ぶりの二桁増と極めて好調に推移した。特にブーツや婦人アクセサリは各店軒並み売上を伸ばしたほか、改装店ではハンドバッグにも勢いがあり、ほぼ全アイテムで前年実績を上回った。
- (3) 11月の歳暮商戦は前年を若干上回る水準で推移した。ネット受注や自家需要商材が引き続き伸びを見せた。
- (4) 最近好調な化粧品(+6.0%)は、冬の乾燥肌対策として保湿用途のスキンケア商材を中心に需要が高まった。また、クリスマス限定キットなども話題を集めた。
- (5) 東京地区の12月中旬までの商況はほぼ前年並みで推移している。衆議院選・都知事選の影響は、投票日当日に若干の入店客数減が見られた程度に留まった。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
 - ①増加した: 5店、②変化なし: 8店、③減少した: 6店
- (3) 11月歳時記 (文化の日、勤労感謝の日、七五三、歳暮) の売上 (同上/有効回答数15店舗)
 - ①増加した: 2店、②変化なし: 9店、③減少した: 4店
- (4) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値/有効回答数20店舗)
 - ①増加する: 2店、②変化なし: 13店、③減少する: 4店、④不明: 1店

東京地区百貨店 売上高速報 2012年11月

※店舗数調整後 ()が調整前

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	140,799,835	100.0	3.1 (2.5)
紳士服・洋品	12,854,247	9.1	6.6
婦人服・洋品	28,064,962	19.9	5.2 (4.7)
子供服・洋品	2,316,834	1.6	8.4
その他衣料品	2,839,286	2.0	0.5
衣 料 品	46,075,329	32.7	5.4 (5.1)
身のまわり品	16,907,060	12.0	10.8 (7.5)
化粧品	7,576,334	5.4	6.0
美術・宝飾・貴金属	6,892,567	4.9	3.3
その他雑貨	6,357,831	4.5	-9.7
雑 貨	20,826,732	14.8	-0.1
家 具	1,863,266	1.3	-1.6
家 電	799,583	0.6	-62.4
その他家庭用品	4,870,694	3.5	-6.6 (-7.5)
家 庭 用 品	7,533,543	5.4	-18.4 (-18.8)
生 鮮 食 品	6,713,763	4.8	4.5
菓 子	10,210,540	7.3	7.0
惣 菜	8,507,312	6.0	6.1
その他食料品	14,770,080	10.5	2.9 (2.3)
食 料 品	40,201,695	28.6	4.9 (4.7)
食 堂 喫 茶	3,137,999	2.2	2.6 (1.5)
サ ー ビ ス	2,450,427	1.7	4.4
そ の 他	3,667,050	2.6	-1.7 (-3.9)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

※

商 品 券	5,122,240 千円	-10.7 (-10.9)
従 業 員 数	19,071 人	-0.3
店 舗 面 積	920,585 m ²	0.5

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、衣料品が3か月ぶり、身のまわり品が2か月ぶり、食料品が4か月連続のプラス。雑貨が2か月連続、家庭用品が3か月ぶりのマイナスとなった。化粧品、生鮮食品が4か月連続、菓子が10か月連続、惣菜が16か月連続、その他食料品が2か月連続のプラス、紳士服・洋品、子供服・洋品、その他衣料品、美術・宝飾・貴金属が2か月ぶり、婦人服・洋品が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	3.1	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	6.6	0.6	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	5.2	1.0	3か月ぶりプラス
子供服・洋品	8.4	0.1	2か月ぶりプラス
その他衣料品	0.5	0.0	2か月ぶりプラス
衣料品	5.4	1.7	3か月ぶりプラス
身のまわり品	10.8	1.2	2か月ぶりプラス
化粧品	6.0	0.3	4か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	3.3	0.2	2か月ぶりプラス*
その他雑貨	-9.7	-0.5	7か月連続マイナス*
雑貨	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
家具	-1.6	0.0	2か月連続マイナス
家電	-62.4	-1.0	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-6.6	-0.3	7か月連続マイナス
家庭用品	-18.4	-1.2	3か月ぶりマイナス
生鮮食品	4.5	0.2	4か月連続プラス*
菓子	7.0	0.5	10か月連続プラス*
惣菜	6.1	0.4	16か月連続プラス*
その他食料品	2.9	0.3	2か月連続プラス*
食料品	4.9	1.4	4か月連続プラス
食堂喫茶	2.6	0.1	6か月ぶりプラス
サービス	4.4	0.1	6か月連続プラス
その他	-1.7	0.0	7か月連続マイナス
商品券	-10.7	-0.4	19か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・佐藤・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>